

記事内容

- ☆平和行動 in 広島
- ☆平和行動 in 長崎
- ☆再配達削減推進に向けた駅頭街宣活動／
夏休み親子・ファミリー自然体験プラン in 尾瀬
- ☆ピークカットアクション／9月の行動予定表
- ☆あけぼのビル

～語り継ぐ戦争の実相と運動の継続で 核兵器廃絶と恒久平和を実現しよう～

2025平和行動 in 広島・in 長崎

平和行動 in 広島

8月4日(月)～6日(水)に、「平和行動 in 広島」が開催され、連合埼玉から14名が参加しました。

1日目は呉市にある「てつのくじら館」、「大和ミュージアムサテライト」を見学し、海軍や海上自衛隊の歴史について学び、様々な展示品を間近で見学しました。

2日目は、連合埼玉主催のピースウォークにて、広島平和記念公園の「原爆の子の像」で折り鶴を献納し、「本川小学校平和資料館」では地元ガイドによる説明を受けました。「広島平和記念資料館」の見学では、核兵器による悲惨さ・非人道性を改めて感じました。午後からは、連合主催の広島平和記念公園内のピースウォーク、「平和ヒロシマ集会」、「原爆死没者慰霊式」が行われ、参加者より献花・献水をしました。

最終日は広島市主催の平和祈念式典に参列し、原爆が投下された8時15分に、犠牲になられた多くの方に黙祷を捧げました。

唯一の被爆国として、これまでの運動を継承し戦争の実相を次世代へ語り継ぐとともに、平和を願うすべての力を結集し、政府や国際社会に対し核兵器廃絶を強く訴え、恒久平和の実現をめざしていきます。

日程

- 1日目(8/4) ■ピースウォーク①**
時 間 15:15～17:20
会 場 てつのくじら館、大和ミュージアム・サテライト
- 2日目(8/5) ■ピースウォーク②**
時 間 9:30～12:00
会 場 本川小学校平和資料館、平和記念資料館
■連合2025平和行動 in 広島「ピースウォーク」
時 間 13:30～15:00
会 場 広島平和記念公園
■連合2025平和ヒロシマ集会
時 間 16:00～18:00
会 場 広島上野学園ホール
■連合・原爆死没者慰霊式
時 間 19:15～19:45
会 場 広島平和記念公園 原爆ドーム前
- 3日目(8/6) ■「原爆死没者慰霊式・平和祈念式典」(広島市主催)**
時 間 8:00～
会 場 広島市平和記念公園 原爆慰霊碑前

参加者

- 岡安 和也 (UAゼンセン／ハイデイ日高労働組合)
佐藤 悠太 (UAゼンセン／ハイデイ日高労働組合)
吉野 征行 (電機連合／岩崎電気労働組合埼玉支部)
遠藤 和也 (JAM埼玉／ジーエス・ユアサ労働組合川越支部)
三浦 智史 (情報労連／NTT労働組合北関東信越総支部アイ・ピー・エス分会)
高橋 英之 (情報労連／NTT労働組合北関東信越総支部アイ・ピー・エス分会)
松澤 隆之 (運輸労連／ヤマト運輸労働組合所沢支部)
武井 忠 (運輸労連／ヤマト運輸労働組合越谷支部)
兼平 貴明 (秩父地域協議会／秩父富士労働組合)
中尾きおみ (本庄・児玉郡地域協議会／沖電気工業労働組合北関東支部)
持田 佳史 (熊谷・深谷・寄居地域協議会／JFE建材労働組合熊谷支部)
若山 桂輔 (連合埼玉・青年委員会／プロテリアル労働組合桶川支部)
田村 千紘 (連合埼玉・女性委員会／本田技研労働組合埼玉支部)
山下 健次 (連合埼玉・副事務局長)

①今回、連合平和行動(沖縄、広島、長崎、根室)に参加したのは何回目ですか？

②今回参加された感想

①初めて

②今回初めて広島の平和行動に参加させていただきました。自分の中では初めて見分することが多く非常に有意義な活動でした。なぜ、組合に平和行動があるのか、平和でなければ労働するという日常がなくなること、私たちの生活が守られないことを強く感じました。だからこそ組合の活動の中の平和行動がいかに大切かが初めてわかりました。



佐藤悠太

また、何よりも一番参加して良かったことは、新しい仲間や元々の組合メンバーとも多く交流が持てたことです。自分のことだけを知ってもらうだけでなく、相手のことも知るチャンスがありました。

2泊3日という短い時間ではありましたが自分にとっては、とても多くの学びがありましたし、改めて平和の大切さや、今できることを地道にやることなど、自分の再発見につながりました。これからの組合活動に活かしていきます。

①初めて

②この度は大変貴重な経験をさせていただきありがとうございました。

私自身、学生時代の授業もそうでしたが原爆などあまり意識したことがなく生きてきました。



岡安和也

てつのかじら館、大和ミュージアムサテライト、平和記念公園、本川小学校平和資料館などガイドさんたちから当時の状況や建造物こめられた思いなどを聞けました。ただ見るだけでなくその場での説明もあり、より心に残りました。今の生活が当たり前ではない。今の環境に感謝、平和を続けていかないといけないことを改めて感じられる体験でした。

①初めて

②平和行動に参加して、命の尊さや戦争と平和、核兵器廃絶について深く考える3日間でした。

原爆投下から80年という節目に貴重な体験ができ、特に平和記念資料館では外国の方が涙を流す姿が印象に残りました。被爆者の講話では復興した広島の下には原爆犠牲者の遺骨が眠っており、自分たちはその上を生きているということを忘れてはいけな



吉野征行

いと話された事に原爆の恐ろしさを痛感すると共に、悲惨な戦争を繰り返さぬよう、子供たちに語り継いでいく使命を強く感じました。

①2回目

②このたび、連合主催の平和行動に参加し、8月4日から6日まで広島と呉を訪れました。広島を訪れるのは6年ぶり2回目でしたが、今回は以前よりも一層、心に深く残る時間となりました。というのも、前回と違い、今は二人の子どもを育てる親の立場でこの地を訪れたからです。平和記念資料館で目にした被爆の惨状、人々が傷つき、助けを求め



遠藤和也

る姿の記録や絵画を見たとき、「もしこれが自分の子どもだったら…」と考え、想像するだけで目を背けたくくなるような思いに駆られました。命の尊さ、平和の重みが、かつてないほど現実味を帯びて迫ってきました。今回の訪問を通じて、平和は与えられるものではなく、学び、継承し、守り続ける努力の上に築かれるものだ

①初めて

②2025年8月6日、広島平和式典に私は初めて参加しました。原爆ドームの前に立ったとき、現実の中に異世界があるような、不思議な感覚になりました。ここだけ時間が止まっているようで、言葉が出ませんでした。式典が始まり、8時15分の黙祷の時間になると、鐘の音が響いて、会場が一気に静まりました。その瞬間、胸がぎゅっと締め付けられるような気持ちになりました。



三浦智史

前日に開催された「平和ヒロシマ集会」で、被爆者の方が「広島を歩く時は、亡くなった方々の上を歩いていると思って、心の中で『踏んずけてしまっ

てごめんなさい』『安らかに眠ってください』と声をかけてください」と話されていたのがすごく心に残っています。その言葉を聞いてから、広島

の街の見え方が変わりました。平和宣言の中で語られた、「核兵器廃絶の思いを市民社会の総意にしていかなければならない」という言葉も強く心に残っています。式典を通じて、平和は遠い理想ではなく、私たち一人ひとりが築いていくものだ

①初めて

②今年、戦後80年という節目を迎えました。

広島は原爆投下から80年が経ち、私たちはあらためて平和の尊さについて考える時を迎えています。初めて広島を訪れ、平和記念公園に立つ原爆ドームを前に、言葉を失う思いです。あの日、たった一発の爆弾によって奪われた多くの命。そして、生き残った人々が背負った悲しみと苦しみ。その事実を、私たちは決して忘れてはならないと思います。



高橋英之

80年という歳月が流れ、戦争を知らない世代が増えてきました。私もその一人です。語り継ぐ事をやめてしまえば平和はただの言葉になってしまいます。被爆者の方の言葉や、広島での取り組みは私たちに、伝える責任がある事を教えてくれました。平和とは一人ひとりの争わない、命を大切にするという思いが必要だと思いました。日々の生活の中で思いやりや対話を大切にしていく事が平和な社会への第一歩ではないでしょうか。

①2回目

②私が、今回の広島平和行動で感じたことは、今世界では戦争がたくさん起こっており、核兵器をめぐる国際情勢は厳しさを増しています。こうした現状は何とかならないのか。最近



武井 忠

はニュース番組などで昔と違い、戦闘機やミサイルなど、リアルに町が破壊される映像が映し出されています。原爆と同様で、ボロボロの壁、血のついた衣服、曲がった鉄骨、火傷をおった人々、食糧不足に触れて食べるものがない孤児たちの餓える様子を見ると心が痛みます。罪のない一般の小さい子からお年寄りまで、無差別に殺されていると考えると恐ろしく感じます。原爆ドーム周辺を見ていると、鳥や魚、力強く鳴くセミ、植物が多く、自然が豊で平和そのものと言えるほどの街に見えました。80年前の同じ日、同じ時間に、今自分が立っている場所に爆弾が落とされ一瞬にして、町が壊滅し多くの人が命を奪われ、生き延びられたからといって幸せなわけではない。被爆者が高齢化し、体験を直接聞くことが難しくなる中で切明千枝子様のお話が聞けたことがありがたく思います。

今回の研修を通じて、実際に見て感じたことを周りの人に発信し、少しでも多くの人に戦争の悲惨さ、核兵器の恐ろしさ、平和の大切さを伝えてまいります。

①初めて

②本川小学校平和資料館を訪れて、原爆投下で爆心地よりもっとも近かった本川小学校は大きな被害を受け、地下室や壁のあちらこちらに当時の惨状の跡が残っており、原爆の写真パネルや溶けたガラス瓶などの資料を観て、改めて原爆の悲惨さを学ぶことができました。

また、広島原爆資料館は、日本人なら一度は訪れてほしい場所だと思いました。戦争の悲惨さと平和の尊さを深く心に刻まれる場所でした。被爆者の証言や当時の遺品が丁寧に展示されており、一つひとつに重みを感じられ、特に子どもたちの遺品や手紙には胸が詰まりました。

集会時に、被爆体験証言者の切明さんの「広島の人になってしまった人のためにも悲惨な体験を忘れてはいけない」の言葉が忘れられません。実際に見て感じたことを周りの人に発信し、少しでも多くの人に戦争の悲惨さ核兵器の恐ろしさ、戦争はしてはいけないということ、平和の大切さを伝えていきたいと思いました。

貴重な体験をありがとうございました。



松澤隆之

①初めて

②8月4日から8月6日に2025連合平和行動in広島に参加させていただき、非常に貴重な経験となりました。

広島市平和記念公園では、記念碑や様々なモニュメントがありましたが、原爆ドームは圧倒的な存在感でした。戦争の悲惨さと、ここからの復興を象徴する建物であり、これからも後世に残していかなければいけないと思いました。平和記念資料館では被爆者の遺品や写真が展示されており、戦争の悲惨さを深く知ることが出来ました。

世界の平和について、ロシアによるウクライナ侵攻、イスラエルとパレスチナ間の戦闘、唯一の被爆国である日本が果たすべき役割とは何か、そして平和な未来を築くために自分に何ができるのか考えさせられました。争いや紛争がなく、人々が安心してくらせるように願い、行動を起こすことの大切さを感じました。



中尾さおり

①初めて

②平和行動in広島に初めて参加させていただいた中で、特に印象に残っているのが原爆ドームでした。被爆前の姿は左右対称の洋風建物であったことも初めて知り、その変わり果てた姿が原爆の悲惨さを物語る象徴であることを改めて思い知りました。また、当時、建物の中で働いていた方々が原爆により何もわからないまま、一瞬で命を奪われたことを想像するとやるせない気持ちになります。同時に、今も世界中に多くの核兵器が存在する状況を見ると、自分たちにも同じことがいつ起きてもおかしくはないのだと恐ろしさを感じました。

連合2025ヒロシマ集会では、切明千枝子さんの体験談を聞かせていただき、原爆投下直後の悲惨な状況、特に原爆の熱線により大やけどを負い、避難先で亡くなった後輩の遺体を学校の校庭で火葬した話が印象的でした。終戦から80年が経過し、当時のことを知る機会が少なくなっていく中、貴重なお話を聞くことができ、大変有意義な3日間となりました。



兼平貴明

①3回目

②昨年の長崎に続き、今年は広島に参加させて頂きました。酷暑の中での平和行動となりましたが、今年は原爆投下から80年と言う事で他の参加者の方も少し緊張している様子が伺えました。

どこの地にも赴いても感じるのですが、そこに住まわられていて突然、無慈悲に家族や生活を失いどこに怒りをぶつけて良いかもわからず、それでもこの日本を再構築し支えて来て下さった皆さんの思いを重く、そして強く感じました。戦争は二度と起こしてはいけません。でも、絶対に忘れてはいけない。平和を追及しバトンを繋いでいく役目をしっかりと考え担っていく事を改めて考えることが出来ました。

今、世界が間違えた方向に進みつつありますが、日本だけは道を踏み外さないよう平和行動を通じ平和の根幹をより多くの人と共有できる世の中が来る事を願っています。



持田佳史

①初めて

②平和行動で初めて広島を訪れ、戦争と被爆に向き合う機会をいただきました。今も当時のまま残る原爆ドームや本川小学校からは、原爆の痛ましい傷跡を感じるとともに、一瞬で多くの命や日常が奪われた悲劇を思い知らされました。また、平和記念資料館での内容はかなりショッキングなものばかりで、人々の身体や心に想像以上の深い傷を与えてきた記録に胸が苦しくなりました。被爆体験者の話からは、それでもなお懸命に生きてこられた方々が平和を願い続け、後世にその思いを伝えようとしてくださっている姿に強く心を打たれました。

この三日間、大変貴重な経験をさせていただき、広島で触れた事実と人々の思いは、私たち一人ひとりがしっかりと受け継ぎ、決して風化させてはならないものだと感じました。今後は、私自身も「平和」について考える時間を増やしていきたいと思います。



若山桂輔

①2回目

②今回、被爆後80年の年に広島の平和行動に参加させていただきました。多くの被爆跡地を訪れ、改めて原爆の恐ろしさを痛感しました。特に平和集会で聞いた被爆体験証言の中の「物忘れはあるが、80年前のことは忘れたくても忘れられない」という言葉と、原爆炸裂直後からの今では考えられない様なお話が心に残っています。当事者でない私でも被爆者にとって思い出したくない壮絶でつらい経験だった事が想像でき、今の平和な暮らしが当たり前でないことを改めて感じました。

この悲劇を忘れない為により多くの人に広島を訪れていただき過去を学び、平和について考えるきっかけを持ってほしいと思いました。



田村千紘



てつのくじら館にて



平和ヒロシマ集会



ピースフラッグ



平和祈念式典会場の様子



原爆の子の像前にて



折り鶴の献納

平和行動 in 長崎

8月8日(金)～10日(日)に「連合平和行動 in 長崎」が開催され、連合埼玉から10名が参加しました。連合主催の「2025平和ナガサキ集会」に参加し、被爆者の訴えでは、当時9歳だった羽田麗子氏より、自宅玄関前(爆心地より約2.6km)での被爆体験談を聞きました。そして、長崎大学核兵器廃絶研究センター長の吉田文彦氏から「国際政治と核兵器の現状」をテーマに基調講演をいただきました。

翌日8月9日(土)の「被爆80周年長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典」には、出島メッセ長崎でのモニター鑑賞グループと、現地での2グループに分かれて参加し、原爆投下時刻の11時02分に全員で黙とうをおこないました。その後合流し、原爆落下中心地公園・平和公園内のモニュメント・碑を巡る「ピースウォーク」に参加しました。例年参加している平和へのメッセージを書き込む「万灯流し」は、天候不良に伴う河川の増水と氾濫の危険に鑑み、主催者側の判断にて中止となりました。

原爆は、一瞬にして多くの尊い命を奪ってしまう兵器です。これまで被爆者の方々は、核兵器廃絶を訴えながら、長い、苦しい時間を過ごしてこられました。80年前、長崎でもがき、苦しんだ人たちに思いを馳せた時、『二度と繰り返さない』『この地球上に核兵器はいらない』と誰もが感じるはずです。参加された方々にとっては、これから先、忘れることのできない記憶になるとともに、「平和行動」の重要性を身をもって感じる事ができた3日間となりました。

日 程	参加者
1日目(8/8) ■連合2025平和ナガサキ集会 時 間 15:30～18:00 会 場 長崎県立総合体育館・メインアリーナ	秋元 愁太 (自動車総連/本田技研労働組合埼玉支部) 鈴木 凌太 (自動車総連/ホンダレインボーモータースクール労働組合) 大塚 博紀 (JAM埼玉/クノールプレムゼジャパン労働組合)
2日目(8/9) ■長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典 時 間 10:30～11:45 会 場 出島メッセ長崎・平和公園 ■ピースウォーク 時 間 14:00～16:30 会 場 原爆落下中心地公園・長崎市平和公園 ■万灯流し 天候不良による河川の増水のため中止	堀内 信也 (さいたま市地協/曙プレーキ工業労働組合岩槻支部) 山崎 行雄 (川口・戸田・蕨地協/日本アンテナ労働組合) 植松 努 (県央地協/プロテリアル労働組合桶川支部) 齋藤 輝光 (東部地協/久喜市職員労働組合) 室伏 真二 (連合埼玉青年委員会/ヤマト運輸労働組合埼玉支部) 藤井 久恵 (連合埼玉女性委員会/社会保険診療報酬支払基金労働組合埼玉センター支部) 迫 幸太郎 (連合埼玉/副事務局長)

①今回、連合平和行動(沖縄、広島、長崎、根室)に参加したのは何回目ですか？

②今回参加された感想

①2回目

②「No more Hiroshima, No more Nagasaki」「長崎を最後の被爆地に」この言葉を今回の平和行動の中で何度も耳にしました。さまざまな場面で繰り返し語られたこの言葉には、戦後80年を迎えた今、私たち労働組合にとっても非常に重要な意味が込められています。被爆者の高齢化が進み、平和の語り部が減少する中で、戦争の悲惨さと核の恐ろしさを次世代に伝えていく責任が、私達にはあります。「No more War」という言葉は、働く仲間の命と暮らしを守る為の誓いでもあり、平和なくして安心して働ける社会は築けません。だからこそ、私達労働組合は、平和の尊さを訴え続け、「長崎を最後の被爆地に」という願いを現実のものとする為に、行動を継続していく事が重要だと改めて感じました。その為には、連合平和活動の強化、職場での平和学習の推進、そして核兵器廃絶を求める連帯の構築が不可欠です。未来を担う若者たちと共に、平和の灯を絶やすことなく、次の世代へとしっかりと受け継いでいく努力を続けていきます。



大塚博紀

①2回目

②2023年に平和行動in広島へ参加して以来、二回目の参加になります。今回参加させていただいた長崎も、広島同様に被爆地として大変な歴史を辿ってきたことが伺えました。特に印象的だったのが被爆直後の写真の数々で、中には目を背けたくなるような写真がいくつもあり、大変胸が痛みました。人の命も生活の営みも一瞬にして奪い取ってしまう核兵器の恐ろしさを知る一方で、世界にはいまだ12,120発あまりの核弾頭が有る事を知り、驚愕しました。戦後80年という節目に平和行動へ参加させていただいたことを、今後も一人の人間としては勿論のこと、組合活動を通じて改めて恒久平和と核兵器廃絶、核兵器のない平和で公平な世界、ノーモア・ヒロシマ、ノーモア・ナガサキ、ノーモア・ヒパクシャを訴えていきたいと思っています。



植松 努

①初めて

②「2025平和行動in長崎」に初めて参加させて頂きました。一発の原子爆弾が多くの尊い命を奪い、長崎への原爆投下から80年を迎えた今でも心身ともに苦しめられている実績に触れ、核兵器という非人道的兵器の廃絶と世界平和にむけた運動継続の重要性を再認識させて頂きました。戦争の悲惨さ、愚かさを忘れることなく、平和の尊さを次世代に継承し続けていくことが大切と感じました。



秋元愁太

①初めて

②8月8日から長崎の平和行動に参加させて頂き、一番感じたことは「長崎を最後の被爆地に」しなければならないということでした。しかし、2018年から2025年の間で使用可能な核弾頭が364頭あり、今なお世界は核の脅威にさらされている現状があります。日本は戦後80年を迎えましたが今なお、世界の各地では戦争や紛争が絶えない悲惨な現状の中で、今後また同じ悲劇を繰り返さないように、我々も戦争の悲惨さと唯一の被爆国の国民として、決して色褪せずに語り継ぐ必要があると強く感じました。



鈴木凌太

①5回目

②今年は戦後80年の節目でもあり、メディア等で原爆の恐ろしさ、平和の大切さは特に多く放送されていますが、現地を肌で感じることに勝ることはないと感じました。世界では、核の威嚇など過去数十年で最悪レベルといわれていますが、唯一の被爆国として核軍縮と核不拡散の強化に向けた努力は国として必要だと思います。また被爆80年が経過し、今当時を語ることができる語り部の方々の減少と活動の継承が課題となっていることも感じ、以前お話をお伺いした方も亡くなっている現実にも衝撃を受けました。個人的なことだが、私の祖父も長崎出身、祖父は戦中に戦死してしまっているのが被爆はしていませんが、親族には被爆した方がいます。このような境遇だからこそ、私も微力ながらも伝える活動を継続していきたいと思っています。



山崎行雄

①2回目

②はじめて平和祈念式典に参加させて頂き、そこにはご年配の方はもちろん、若い方から小さい子、そして海外の方々が大勢参列して驚きました。世界中が原水爆撲滅、平和を願っていると感じました。あれから80年この世界では何が変わったのでしょうか？世界には約1万2000個以上の核兵器が存在し戦争が行われています。これほど悲惨で人の命を奪い合うだけの事だと知っているのに無くなる戦争。では、どうしていけばいいのか。今、被爆者の平均年齢は86歳となっています。私たちがこの気持ちを知り後世に繋げていき、この世界から戦争、核兵器を無くしていかなければなりません。「微力だけど無力ではない」平和行動とは観光と思えば楽しいだけ、勉強として参加すると重くつらい活動です。目をそむけずに活動していきたいと思っています。



室伏真二

①2回目

②原爆投下から80年を迎えた長崎の「平和ナガサキ集会」「平和祈念式典」「ピースウォーク」に参加させて頂き、改めて平和に対する意識が低かった事に気付かされました。被爆体験者の平均年齢も86歳となり被爆の記憶の風化が心配される中、ナガサキ・ユース代表团や高校生平和大使の若い世代の活動を周りにも広め、核兵器のない平和な社会になっていくよう「ビリョクだけどもリョクじゃない」を胸に行動していきたいと思っています。



堀内信也



参加者のみなさん



折り鶴献納

①4回目

②私の叔父が今回伺った長崎にて被爆しており、被爆の悲惨さを現地長崎で感じたいと思い、参加させて頂きました。式典での長崎県知事の声は抑揚が多くあり、伝えようという気持ちが言葉に乗っていました。声に至っては音を発するだけでなく、意思がありました。聞く私は心が打たれてしまいました。長崎で起こった悲惨な事への怒り、長崎が最後の被爆地となり平和を祈る強い心、その他いろいろな悪き事を防ぐ努力を聞き取りました。すばらしい挨拶でした。長崎の平和に関する「熱」を感じ取り大変満足しました。長崎原爆資料館(8月9日のみ観覧料無料)では、事前のバス研修で伺った埼玉県東松山市丸木美術館展示の原爆絵画の続きの作品(1枚)も見ることができました。丸木美術館に行ったのなら一度は伺うべき資料館と思いました。戦争の悲惨さ惨めさは、頭で理解してただの知識、ですからぜひ「平和行動」に参加して、記憶に焼付ける行動をして将来に備えようではありませんか！



齋藤輝光

①3回目

②「ノーマ・ヒロシマ、ノーマ・ナガサキ、ノーマ・ヒバクシャ」長崎を最後の被爆地にしなければなりません。私たちができることは、平和の継承です。労働組合として、対話を通じて、平和の継承をつなげていくことの使命を再認識した、長崎の平和行動でした。



藤井久恵

再配達削減推進に向けた駅頭街宣活動

～宅配を1回で受け取ろう!キャンペーン～

7月29日(火)18時より、大宮駅東口駅頭において、再配達削減推進に向けた「宅配を1回で受け取ろう!キャンペーン」について街頭宣伝行動をおこないました。

埼玉県では、「強い経済の構築に向けた埼玉県戦略会議」において、私たち労働者の団体を含む社会を構成する、「産・官・学・金・労」の各界の団体に加えて、消費者団体、物流団体、主要な物流事業者など、23団体の皆様とともに、物流の問題を我が事(こと)としてとらえ、埼玉の持続可能な物流の確保に向け、関係者が連携して取り組んでいく「埼玉の持続可能な物流の確保に向けた共同宣言」をおこないました。

私たち労働団体も一緒になって、今回の「持続可能な物流の確保に向けた共同宣言」により、働く仲間の

労働組合としても、積極的に取り組むことを確認し活動を進めてきております。

そして、今回、1月21日の浦和駅東口に続き、大宮駅東口で実施することとしました。冒頭に連合埼玉会長の平尾より埼玉県の物流の現状など含めた挨拶をおこない、その後、「物流業界を取り巻く状況」について、物流業界の構成組織組合員から県民への訴えをし、最後に連合埼玉より「再配達削減推進に向けた宣言文アピール」を読み上げ、大宮駅東口駅頭での街宣活動は終了しました。

今後、東部ブロックが10月1日に久喜駅西口ロータリー、西部ブロックが10月28日に川越駅西口デッキ上で、両駅頭とも18時から街宣行動を予定していますので積極的な参画をお願いいたします。



平尾会長



石田執行委員長
(ヤマト運輸労働組合埼玉支部)



小林副事務局長



大谷事務局長

夏休み親子・ファミリー自然体験プラン in 尾瀬

ネットワークSAITAMA21運動では、7月25日(金)～26日(土)にかけて、構成組織の組合員とその家族ならびに事務局をあわせた8名で、尾瀬の自然に触れ、自然の大切さと保全の重要性などを学ぶ機会として「夏休み自然体験in尾瀬」を開催しました。

1日目の昼食は「かもしか食堂」にて、そば定食を満喫しました。その後、快晴の空の下、ガイドの方から尾瀬の自然について説明を受けながら木道を元気よく歩き、広大な景色を楽しみました。

散策途中には雷が鳴り、雨が心配されましたが、無事に東電小屋に到着しました。

2日目も晴天の中、8.8km先のゴールを目指し出発しました。

最後に待ち受けるキツイ登り坂も自力で踏破して、全員無事に鳩待峠に到着しました。

心地良い疲れと達成感の中、皆さんはソフトクリームや冷たい飲み物で疲れを癒していました。

今回の自然体験は天候にも恵まれ、尾瀬の自然の豊かさや雄大さを満喫することができ、その自然を人の手で汚すことのないよう保全していくことの重要性を感じることができました。



参加者のみなさん



東電小屋



尾瀬木道



尾瀬ガイド説明



7 太陽マーク



13 目マーク

はたらくのそばで、
ともに歩む

連合エコライフ

2025 夏 ピークカットアクション



① 省エネモードなど各機器の節電機能を活用しよう。
② プリンター等の共有機器の使用台数を必要最低限に。
③ 仕事おわりに共有機器の主電源を切って終了。できればテーブルタップの電源オフ。



④ 屋内、屋外等の職場環境に応じた服の調整。クールビズの実践を。
⑤ 冷房機器の使用時は、カーテン・ブラインド、サーキュレーターを活用しよう。
⑥ こまめにエアコンのフィルター清掃をしよう。
⑦ 熱中症対策をしながら節電に取り組もう。暑さ指数や各種アラートをチェックし、水分・塩分を補給しよう。



⑧ 昼休みや未使用時の事務所・会議室・トイレなどの、こまめな消灯を。
⑨ LED電球への買い換えや、可能な範囲で電球の数の引き換えを。
⑩ 目に負担をかけない範囲で明かりを抑えよう。



⑪ 詰め込みすぎず、温度設定を控えめに（強にしない）。
⑫ 扉の余分な開閉をせず、開閉時間も短く。



⑬ 温水洗浄便座は、温度設定を控えめに。
⑭ 使用後は便座のふたを閉めて。



⑮ 階段の利用を推奨し、エレベーターやエスカレーターの使用を最低限に。

※暑さ指数・・・熱中症を予防することを目的に、人間の熱バランスに影響の大きい
①気温、②湿度、③輻射熱の3つを取り入れた指標

現在予定される9月の日程表です

9月		行事等	
		連合埼玉・事務局	地協・産別・労協・福祉事業団体・県・上部・外部団体
1日	月	第4回ジェンダー平等多様性推進委員会(15:00~/連合埼玉会議室)	第2回連合組織拡大推進会議(14:00~/連合東京(web併用))
2日	火	組織委員会(15:00~/連合埼玉会議室)	
3日	水	組合役員教育プログラム・スキルアップ講座⑦(14:00~/あけぼのビル)	①地方連合会「第10回事務局長会議」(13:30~/連合会館) ②連合関東ブロック「第4回幹事会」(16:15~/連合会館)
4日	木	地域活性化フォーラム(13:30~/大宮ソニックシティ)	
5日	金	①平和行動in根室(5~7日/根室市) ②ネット21「第5回運営委員会」(10:00~/連合埼玉会議室)	
6日	土		電機連合埼玉地協「第65回定期大会」(13:00~/あけぼのビル)
7日	日		八潮市長選挙・八潮市議会議員選挙投票日
8日	月		
9日	火	①第10回四役・執行委員会(10:00~/ときわ会館) ②2025年度フェアワーク推進セミナー(15:15~/ときわ会館)	こくみん共済 coop 埼玉推進本部事業報告会(16:00~/ときわ会館)
10日	水		①U A ゼンセン第14回定期大会(10~11日/東京国際フォーラム) ②こくみん共済 coop「第1回正副委員長会議」(13:30~/こくみん共済 coop 埼玉推進本部)
11日	木		
12日	金	①青年委員会「2025連合青年交流会(群馬・栃木・茨城・埼玉)」(12~13日/栃木 マイステイズ宇都宮) ②女性委員会「第6回幹事会」(13:10~/埼玉県県民健康センター) ③女性のためのSTEP UPセミナー(中級編)(14:00~/埼玉県県民健康センター)	
13日	土	①シニア連合「第13回ボウリング大会」(9:00~/浦和スプリングレース) ②組合役員教育プログラム・スキルアップ講座⑧(10:00~/あけぼのビル)	
14日	日		運輸労連埼玉県連合会「第58回定期大会」(13:30~/JACK大宮大宮情報文化センター)
15日	月		
16日	火	①ライフサポートステーション運営会議(13:30~/連合埼玉会議室) ②埼玉県への政策・制度要請行動(16:00~/埼玉県庁)	
17日	水	連合埼玉「第33回チャリティーゴルフ大会」(1日/おおむらさきゴルフ倶楽部)	
18日	木		九都県市政担当各会議(15:30~/連合神奈川)
19日	金		①JAM北関東「第27回定期大会」(19~20日/ホテル木暮) ②埼玉県特定最低賃金審議会(自動車小売り)(9:30~/埼玉県労働局) ③情報労連埼玉県協議会「第56回定期大会」(15:30~/ホテル磯部ガーデン)
20日	土	組合役員教育プログラム・スキルアップ講座⑨(10:00~/あけぼのビル)	
21日	日		
22日	月		連合関東ブロック連絡会「海外交流視察」(22~25日/台湾)
23日	火		
24日	水	組合役員教育プログラム・スキルアップ講座⑩(14:00~/あけぼのビル)	
25日	木	①メンタルヘルスセミナー(基礎編)(13:30~/あけぼのビル) ②拡大アドバイザー会議(14:00~/連合埼玉会議室)	
26日	金	①第3回地協議長・事務局会議(9:30~/あけぼのビル) ②埼玉シニア連合「第7回四役会」「第7回幹事会」(13:00~/14:00~/連合埼玉会議室)	①埼玉県生産性本部「理事会」(13:50~/埼玉会館) ②埼玉県生産性本部「シンポジウム」(15:30~/埼玉会館) ③県央地域協議会「第7回幹事会」(18:30~/労金上尾支店会議室)
27日	土	連合埼玉「2025年度臨時四役研修会」(27~28日/石川県)	
28日	日		
29日	月	①連合寄付講座(ものづくり大学建設学科/応用ゼミ)第1部(9:00~/ものづくり大学) ②第6回政策・制度委員会(14:00~/連合埼玉会議室)	
30日	火		電機連合埼玉地協チャリティーゴルフ大会(東松山カントリークラブ)

「男女平等参画,ジェンダー平等の推進,均等待遇,仕事と生活の調和(ワークライフバランス)」に向けた標語

◇最優秀賞 認め合う 互いの個性と多様性 築こう未来の明るい社会
(自動車総連埼玉地協 ソーシン労働組合・秦 敏晃さん)

※2025年度 ジェンダー平等・多様性推進に向けた「トップリーダー宣言」・標語については、連合埼玉ホームページにも掲載されています。



◆「関東大震災」から102年! 教訓を未来へ! ～いま私たちにできる防災とは!～

1923年(大正12年)9月1日 11時58分に、相模湾北西部を震源とするマグニチュード7.9と推定される関東大地震が発生し、首都圏を中心に14万人以上の尊い命を奪い、当時の社会や経済に甚大な影響を及ぼしました。

この災害は、近代日本の首都圏に未曾有の被害をもたらした、我が国の災害史において特筆すべき災害とされています。また、その発生日である9月1日が、「防災の日」と定められているように、近代日本における災害対策の出発点となっています。加えて、首都直下地震や南海トラフ地震など、大規模災害のリスクに直面する現代の私たちに、大変参考となる示唆や教訓を与えてくれています。

発生から1世紀。私たちの社会は大きく変化し、災害への備えも進んではきましたが、今なお地震や風水害のリスクは消えていません。

改めて、「備えることの大切さ」を共有する機会とともに、いま私たちに何ができるのかを考えましょう!

<歴史から学ぶ教訓>

関東大震災では、マグニチュード7.9の地震に加え、広範囲で発生した火災や火災旋風、情報伝達の混乱が被害を拡大させました。また、デマに起因する混乱や社会的弱者に対する差別・暴力も記録されています。災害が物理的な被害だけでなく、人々の心にも深い傷を残すことを私たちは決して忘れてはなりません。

現在、首都直下地震や南海トラフ地震などの発生が懸念されており、関東大震災の教訓は決して過去のものではありません。100年以上が経った今だからこそ、私たちはこの出来事を「風化」させるのではなく、教訓を「継承」し、「行動」へとつなげる責任があります。

<地域と家庭での防災を>

災害時に最も頼りになるのは、「地域のつながり」と「日頃の備え」であると考えています。また、行政の支援が行き届くまでには時間がかかるため、最初の72時間を自力でしのげる準備が重要と捉えています。

まずは、家庭内で話し合いをおこない、家庭内での基本的な備えを見直しましょう。

○非常用持ち出し袋の準備

食料・水(最低3日分)、懐中電灯、電池、ラジオ、モバイ

ルバッテリー、常備薬、生理用品、貴重品など、自分や家族に必要なものを準備しましょう。

○家族での安否確認方法の共有

災害発生時に連絡が取れない場合の集合場所や連絡手段(災害用伝言ダイヤルなど)をあらかじめ確認しておきましょう。

○防災マップや避難所の確認

自治体が作成しているハザードマップを活用し、自宅周辺のリスク(浸水、土砂災害、地震)や避難場所を家族で確認しておきましょう。

<労働組合としての役割>

私たち連合埼玉に加盟する構成組織の多くは、日々の職場で安全衛生に取り組んでいますが、災害時の対応や事業継続計画(BCP)も含めた「職場の防災力」強化が求められています。

万一の際に、職場が果たすべき役割は多く、従業員の安全確保、地域への支援、ライフラインの維持など、社会的責任は決して小さくありません。組合としても、職場の防災体制に積極的に関与し、訓練や情報共有をつうじて備えを高めていくことが重要と考えています。

また、被災時には、労働者が不当な解雇や待遇の悪化に直面するケースもあります。そうした事態に備え、平時からの労使間の信頼関係づくりや労働相談体制の整備も、防災・減災の一環と考えています。

<防災は「自助」「共助」「公助」のバランス>

防災の基本は「自助」「共助」「公助」の3つと言われています。

まずは自らの命を守る「自助」、次に地域や職場など身近な人々が助け合う「共助」、そして行政による「公助」があります。これらはどれか一つでは不十分で、相互に補完し合うことで初めて効果を発揮します。

特に、地震などの大規模災害時には「共助」が極めて重要と考えています。隣近所や地域のネットワーク、職場での協力体制が被害の軽減につながります。地域の防災訓練や避難所運営訓練に積極的に参加することも、自分と周囲を守る大きな一歩であると考えています。

<未来に向けて>

関東大震災から102年。災害の記憶が風化する一方で、自然災害のリスクはむしろ高まっているとも言われています。地球温暖化の影響で風水害も激甚化しており、「いつか」ではなく「いつ起きてもおかしくない」現実の中に私たちは生きています。

私たち連合埼玉は、今後も構成組織や地域協議会ならびに地域と連携しながら、働く人々とその家族の命と暮らしを守るため、防災・減災の取り組みを強化してまいります。そして、今日を災害への意識と備えを見直す機会とし、未来の世代に誇れる社会づくりをともに進めていきたいと思います。

2025.8.18